



C=Culture
A=Art
P=Promotion

<http://nstokyo.info>

市民と文化

第26号

2016年11月1日発行
発行人 海老澤 敏
編集人 西田 克彦
TEL:080-1164-5253

市民・街・文化をネットワークする「はーもにい」(西東京市文化芸術振興会)

20万都市にふさわしい市民文化ホールの建設を！

新ホールについて一緒に考えてみませんか！

西東京市文化芸術振興会では、20万都市となる西東京市にふさわしい市民文化ホールに関する第一次試案を公表しました。（「市民と文化」第25号）これは、現在建て替えが検討されている西東京市民会館の、いわゆる「3館合築問題」とは切り離れた形で、西東京市の文化芸術振興において最もふさわしい文化ホールのあり方を検討した上で発表したものです。

本号ではQ&A形式で、なぜ新ホールが必要なのかを検証します。

Q1. 今でも市民会館や保谷こもれびホール等がありますよね？

A. たしかに西東京市には、旧田無市が1969年に建設した市民会館公会堂（502席）と1999年建設のコール田無（165席）、旧保谷市が1997年に建設した保谷こもれびホール・メインホール（662席）と小ホール（250席）があります。どちらも当時の自治体の規模に応じて建設されたため、合併し20万都市となる現在では規模が小さいのが現状です。

そこで、20万都市となる西東京市にとって、どのようなホールが必要なのかという視点で考えたのが、1,300人～1,500人規模の文化ホール構想です。

これは市が先般公表した、西東京市公共施設等総合管理計画～公共施設等マネジメント計画（案）の中にある「20万都市にふさわしいホール機能の観点から、本市における文化施設のあり方を検討します」との市の計画にも合致しています。



いわきアリオス大ホール(1705席)
PFIにより2008年に建築(HPより)

Q2. なぜ1,300～1,500人規模なんでしょう？

A. 1,300～1,500人という規模に設定した理由は、採算性、稼働率、運営コスト等を勘案して、効率よく運営できる最小規模ということです。

大きなホールは満席になれば収入も大きいのですが、稼働率は下がってしまいます。これに対し、現在のこもれびホールのメインホールでは人気の高いアーティストの公演を行いたくても、キャパが小さいため採算ベースに乗らないのが現状です。

したがって稼働率も上がり、人気のある公演を行っても採算の取れそうな規模が1,300人～1,500人ということになります。

Q3. いつ、どこに、どうやって建設するのですか？

A. いわゆる「ハコモノ」を建設することになるので、様々な条件をクリアする必要があります。時期は田無庁舎が寿命を迎える2032年以降、場所は田無庁舎の跡地を第一候補と考えています。

田無駅の乗降客数は市内5駅で最も多く、その田無駅に近い田無庁舎の跡地に民間活力を導入するPFI等の手法で大型商業施設等との複合ビルを建設し、極力税金を使わない方法でホールを建設するのが現実的な案だと考えています。

その頃にはこもれびホールも35年を迎えるので、次期のホールを検討する時期になります。



このように、すぐに新ホールを建てるということではなく、3館合築問題、庁舎統合問題等が解決された後、最適な場所に最もお金をかけない方法で新ホールを建設するべきであるというのが当会としての提言です。みなさんのご意見によりこの構想をさら進化させ、ぜひ実現させたいと思っています。みなさんの忌憚のないご意見をお待ちしています。